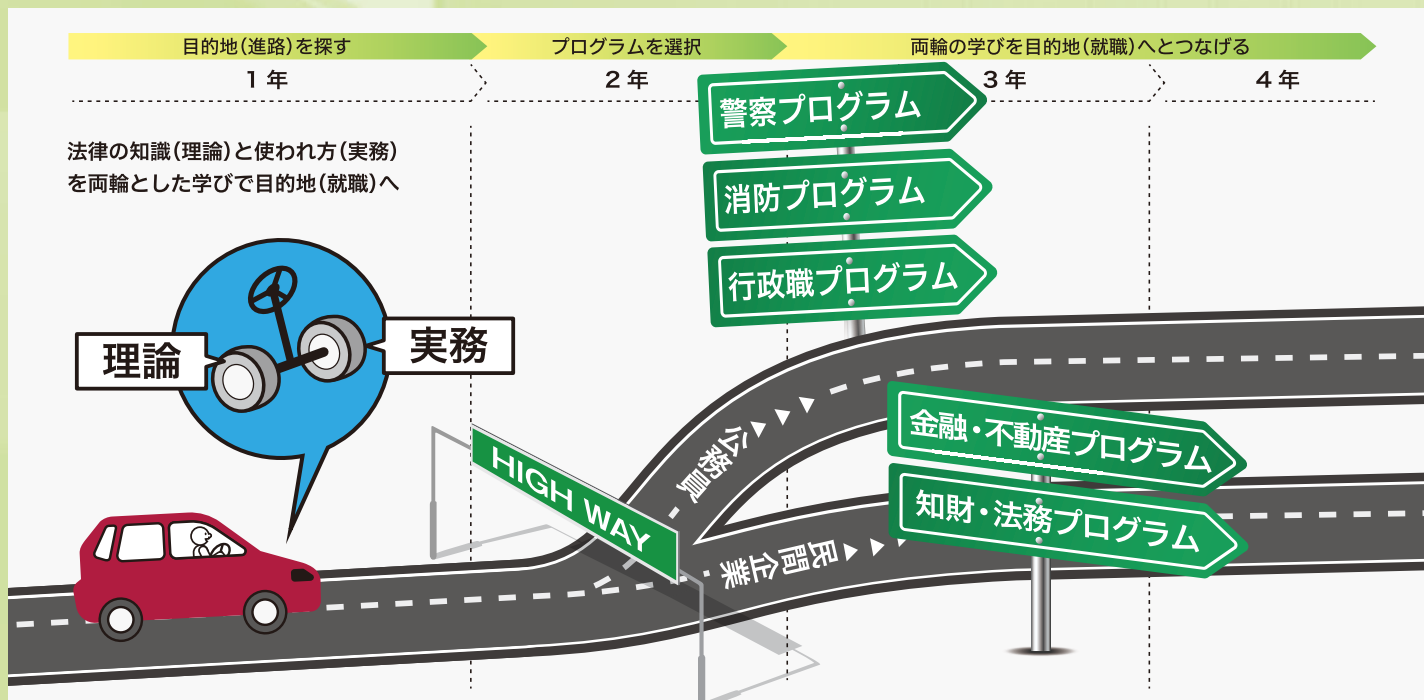


法学の学びをキャリアへつなげる 新たな「プログラム」制度、開始

法学部 法学科

法学部では、令和7(2025)年度から学びをキャリアに結びつける新たな「プログラム」制度をスタートさせます。

従来の「コース」制度をリニューアルし、「公務員」「企業」の2コースから「行政職」「警察官」「消防官」「金融・不動産」「知財・法務」の5プログラムへと大幅にバージョンアップ。学生の希望にきめ細かく寄り添った新制度について、詳しく紹介します。



■キャリアに直結する学びを 1年次からスタート

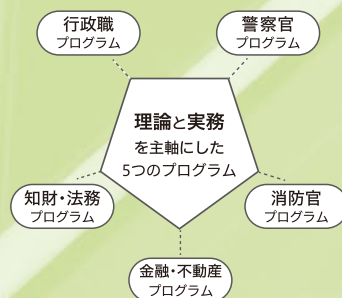
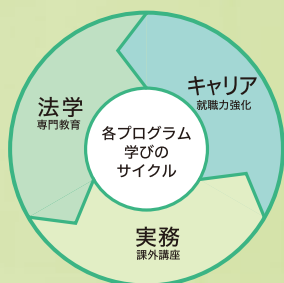
実社会で確実に力となる「実学」を重視する帝塚山大学では、入学後の早い段階から卒業後のキャリアを意識したカリキュラムを提供しています。法学部では、まず1年次に職業理解に関わる必修履修科目を通じて、民間企業や公務員・公共団体などの幅広い仕事への理解を深めます。法学部の大きな特徴である、警察官や消防

官、経営者など現職の方を招いての「**実務講座**」も1年次から受講可能。アドバイザー教員との面談なども行い、「自分は将来、どんな仕事に就きたいか」を学生一人ひとりがしっかりと考えた上で、2年次に進級する際に5つの中から希望するプログラムを選択します。法律の専門的な知識を学び(**専門教育**)、それが実際の仕事でどう活かされるのかを実務教育(**課外講座**)で具体的に確認。さらにキャリア教育(**就職力強化**)によって学びを就職へとつなげていく。専門教育・実務教育・キャリア教育が互いに組み合わせ、補完し合いながら、学生一人ひとりを「入口から出口まで」しっかりと導き、サポートするのが、法学部の学びの特色です。そしてその進路をナビゲートするのが、5プログラムの役割でもあります。

■早い段階で仕事の「現実」を体感 プログラムの変更は自由可能

従来のコース制は「公務員が民間企業か」という大きな二択でしたが、今回の改変で、より細かなキャリア選択が可能になります。特徴的なのは、すべてのプログラムで「実務講座」や「実務演習」など、楽しさや難しさも含めた仕事の「リアル」を体感できる機会が多いことです。現役の公務員やビジネスパーソンから話を聞き、グループワーク等で仕事を疑似体験することで、その職種に臨む覚悟や心構えを育み、志望する気持ちを深めることができます。中には、同じ実務講座を1年次から4年次まで毎年受講する学生も少なくありません。逆に「思っていたのと違う」と感じることもあるでしょう。それは、就職におけるミスマッチを防ぐ重要な機会となります。

プログラムは、あくまでも希望するキャリアに進むあなたをサポートするための「**履修モデル**」です。実務講座を履修しないと、その仕事に就けないわけではありません。途中でのプログラム変更も自由です。「自分は何をしたくて、何をしたくないか」「何が向いていて、何が向いていないか」を確認し、より良い将来に向けて試行錯誤することも、このプログラムを導入する目的のひとつです。



■一人ひとりの学生に合った オーダーメイドの学びを提供

法学部では、少人数教育の利点を最大限に活用し、学生の個性に応じたオーダーメイドの指導を目指しています。プログラムの導入と同時に、アドバイザー（担任教員）の役割も強化。できるだけ早い段階で学生の希望する進路を把握し、適切な履修モデルを提示するようにしています。また自分を分析して進むべき道を考える「キャリアデザイン」のサポートも実施。カリキュラムの一環として「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を開講し、資格取得への挑戦やインターンシップへの参加など、希望する未来へ進むサポートを行います。もちろんキャリアアセンダーと連動した具体的な就職サポートにも力を入れ、学修とキャリア形成がきちんと連動するよう、全学で支援を行います。

実務講座では、詳細なノートテイキングを奨励しています。現場で働く方々から聞いた言葉は、就職活動でのエントリーシート作成に非常に役立つからです。

より高度な学びや難関資格の取得を目指す学生には、専任の教員が学生一人ひとりの目標に合わせたオーダーメイド型指導を行う「アドバンスクラス」を用意。課題解決型のプロジェクトや社会人基礎力の育成など、一歩踏み込んだカリキュラムを提供しています。自分らしい未来を具体的に思い描き、その実現に向かって効率的に学び、経験する。そんな学部を目指しています。

■法を学ぶことで傾聴力や理解力、 公正さを磨き、自信を獲得しよう

法律は決して難しいものでなく、身近な場面に存在します。法律を学ぶということは、世の中の仕組みを学ぶことでもあります。よく言われる「リーガルマインド」とは、物事を理性的にとらえて問題を解決する思考方法、と言い換えられるでしょう。法律を学ぶことで身につく傾聴力、理解力、説明力、バランス感覚や議論を整理する力は、どんな仕事に就いても必ず役に立ちます。自分を見つめ、学び、自信を持って世の中に出られるよう、大学・学部全体で支援します。

NEW!

5つのプログラム

01 県庁・市役所職員を目指す[行政職プログラム]

「憲法」「行政法」「民法」など行政の仕事に直結する講義や実務講座により、公務員の多岐に渡る職務を学習。地方公務員試験に向けた対策も行います。

02 警察官を目指す[警察官プログラム]

1年次から警察官の職務と心構えを学習。現職・OB警察官による実務講座や実務演習に加え、特別講義や試験対策講座も豊富に用意されています。

03 消防官を目指す[消防官プログラム]

1年次から現職消防官による現場体験・実務の講義を用意。消防の使命と実務を学び、消防法なども学習します。試験・面接対策講座も充実しています。

04 金融・不動産の実務家を目指す[金融・不動産プログラム]

高いコンプライアンス（法令遵守）意識が求められ、関連法規も数多い2業界を目指す学生のために、専門の講義に加え、資格取得サポートなどを行います。

05 一般企業での活躍を目指す[知財・法務プログラム]

企業の活動はさまざまな法律のもとで行われています。「企業活動と法の実務」などの講義を通じて、企業と法律の関係や法務の実務を学んでいきます。

学外の機関・団体と連携し、学年を超えたプロジェクトを多数実施

法学部学生が小学1年生に 交通安全教室を開催しました

入学間もない小学校1年生に交通ルールを知ってもらうことを目的に、法学部アドバンスクラスの学生が帝塚山小学校で「交通安全教室」を行いました。警視庁の「小学生の交通事故発生状況（令和5年中）」によると、「小学生の交通事故は件数・死者数いずれも増加」「小学生の歩行中の交通事故のうち約7割が道路横断中に発生」「1年生の歩行中の交通事故発生件数は6年生の約3.5倍」となっています。本教室は、そのような背景を踏まえ、奈良県警察の協力を得て企画したオリジナルプログラムです。参加した児童たちは、横断歩道の正しい渡り方などを楽しみながら学んでいました。



アドバンスクラスとは、「もっと上を目指したい」という向上心を持った学生のために、社会人基礎力の育成・習得を目的として設けられた授業です。学年や学部に関係なく、目標に応じた授業を受けたり、学外の機関・団体との連携活動によるプロジェクトに取り組んだり。多くの人に会い、様々な経験を積むことによって、論理的な思考力と行動力、文章表現力、プレゼンテーション能力などを養うことができます。

奈良市議会報告会に参加し 学生たちが議員と政策を討議

アドバンスクラスを主体とした法学部生15名が、奈良市議会主催の「第11回 議会報告会」に参加しました。今回のテーマは「あなたが市長だったら」というもので、奈良市内の大学生全27名が参加。①子育てと教育の充実 ②地域福祉 ③防災対策 ④環境と産業の両立という4つのテーマに分かれ、議員や市職員も加わっての本格的な議論が行われました。グループワーク後には議場にて各グループの提案を行い、本学の学生が登壇する場面もありました。普段では入ることができない議場で、しかも緊張感が漂うなかでも、分かりやすく丁寧な説明ができていました。

